

人々の楽しく健やかなくらしに貢献し、 いのち 生命の恵みを育む地球環境との調和を目指して。

代表取締役社長 井川 伸久

ニッポンハムグループは、ハム・ソーセージや加工食品の製造販売業のほかに畜産業も営んでいる、食品業界でも稀有な企業です。このような企業特性から、地球環境や社会はもちろんのこと、日本の畜産業界の持続可能な発展に貢献するという使命を担っています。

こうした使命を果たすべく、私たちは、家畜由来のGHG排出削減やアニマルウェルフェア、畜産農家の負荷を軽減するスマート養豚システム「PIG LABO®(ピックラボ)」の開発・普及などに継続して取り組んでいます。また、家畜の飼料などにも影響する生物多様性の保全を目的としたTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)のフレームワークに沿った分析・評価に取り組み、公表しました。今後は、2024年7月に業務提携を発表したJA全農との共創や、未来の国内畜産業に新たな価値を提供するカーボンニュートラル農場の実現にも挑戦していきます。

一方、加工食品では商品包装として使用しているプラスチック使用量の削減が大きな課題であると認識しています。20年以上包装材に関する取り組みを続けており、2年前に

は主力製品の「シャウエッセン」の包装改良を実施し、一気に加速させました。今後も主力商品を中心に幅広い商品で包装改良を展開していきます。

北海道のシンボルを目指して2023年3月に開業した「北海道ボールパークFビレッジ」では、共同創造空間をコンセプトに、行政や地域、周辺事業者などと共創し、多彩な施設や空間を創り出しています。また、食の発信拠点である「食のテーマパーク」としても位置づけ、野球ファンのみならず、多くの来場者の皆様に楽しんでいただくことを目指しています。球場を起点に、食・住・遊・学といった機能を備えた、これまでにない街づくりで、新たな価値を提供し続けていきます。

また、2024年4月に、中期経営計画2026の方針策定にあわせてサステナビリティ戦略としての4つの柱を設定しました。外部環境や事業環境の変化も考慮し、従来のマテリアリティも見直しを図っています。

このサステナビリティ戦略を実行することで、人々の楽しく健やかなくらしに貢献し、生命の恵みを育む地球環境との調和を目指していきます。



Message

持続可能な未来を実現するために “挑戦と共創”を加速させます。

取締役副社長(サステナビリティ担当) 片岡 雅史

たんぱく質の安定供給の実現

人々の食生活に必要なたんぱく質を生み出す「畜産」、加工・提供する「食品」、この2つを事業の柱としているニッポンハムグループにとって、たんぱく質の安定供給は特有关切最大の社会的使命と考えています。

一方で、たんぱく質を取り巻く環境としては、国内畜産農家の減少や畜産・食品工場における環境負荷といった課題があります。当社グループは、こうした現状を打開し、環境・社会に配慮した安定供給を実現するためには、持続可能な畜産や地球環境の保全といったテーマが重要と考えています。

日本の畜産業のさまざまな課題解決に貢献

畜産事業はたんぱく質供給の要ですが、気候変動や生産人口減少・後継者不足などの課題が複雑化・多様化しています。当社グループはこの現状に危機感を抱き、自社だけでなく業界全体で課題解決に取り組む必要があると考え、日本の畜産業を支えるJA全農と事業提携し、「畜産共創プロジェクト」をスタートさせました。相互の強みを最大限に活かすことで、お客様への安定的なたんぱく質の供給と、事業の効率化を図っていきます。

また、家畜由来の温室効果ガス低減にむけて、大学と連携し消化管由来のメタンガス発生抑制の研究や循環型

農業の実現を目指しています。今後も、さまざまなパートナーと協力しながら、多様な角度から畜産の持続可能性を追求していきます。

気候変動への対応と資源有効活用の推進

2024年度から化石燃料由来のCO₂排出量の削減に加え、プラスチック使用量削減に関する新たな目標を設定しました。2022年には「シャウエッセン®」の包装プラスチック使用量を28%削減しました。これ以前にも、20年以上にわたり包材の薄肉化といった削減に取り組んできましたが、「シャウエッセン®」での取り組みを皮切りに、「中華名菜®」のノントレイ化や「石窯工房®」のトレイサイズダウン、バイオマス包材の使用など、時代の変化に対応した取り組みを加速させました。

今後も商品の安全性を担保しながら、さらなるプラスチック使用量の削減に取り組んでいきます。

さまざまな領域で、 新たな価値の創出に挑戦

当社グループが将来にわたって事業成長を続けていくためには、食の領域での強みを生かしつつ、新たな事業領域での価値創出が必要だと考えています。例えば、2023年に開業した北海道ボールパークFビレッジでは、自治体や他企業などさまざまなパートナーの皆様と一緒に、地域社会の活性化や社会への貢献につながる“共同創造空間”を目指しています。

さまざまな施設を誘致することにより、子どもから大人まで多世代が集い交流する拠点になり得ると考えています。また、2028年には新駅が開業する予定で交通の利便性も高まります。誰もが訪れたいくなる、今までにない街づくりに挑戦していきます。

持続可能な社会の実現を目指し 「サステナビリティ戦略」を策定

2024年4月に、人々の楽しく健やかな暮らしに貢献し、^{いのち}生命の恵みを育む地球環境との調和を目指すために、「サステナビリティ戦略」を策定しました。その中では、食べる喜びの提供、新たな価値の創出、地球環境の保全、レジリエントな事業基盤の強化の4つの柱を軸に、その中で特に重要なテーマをマテリアリティとして特定しています。

この戦略を実行することで、事業活動を通じて社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

